

研究室生活を振り返って

花卉園芸学研究室 修士1年

玉井孝典

自己紹介

花葉会の先輩の皆様、初めまして。私は修士1年の玉井孝典と言います。私は学部時代に花卉研の一員となり、そのまま大学院に進んで、日々研究生生活を送っています。時の流れは早いもので、今年の10月には研究室に入ってからちょうど2年が経過しました。研究室に入っただばかりの時は、実験や植物栽培に関して右も左もわからないような状態で、先輩や先生に頼ってばかりの毎日でした。ですが最近は、未熟ながらもそれなりの栽培や実験もできるようになり、2年の歳月で少しずつではありますが経験や知識が身についているのだと感じています。これからも花に関する知識を積極的に学び、花卉研での生活を思う存分に楽しんでいきたいと思っています！

花卉研の今

現在、松戸の花卉園芸学研究室では教員3名と学生9名が在籍しています。実験材料であるラン・トルコギキョウ・ダリア・シバザクラなどを用いて、倍数体や花色、耐病性に関する研究などを行なっています。例年と大きく変わったことといえば、露地に植えるダリアがかなり増えたことです。実は去年もダリアの数が多く、植え付けや植物管理に大忙しだったのですが、今年はそれをゆうに上回る量にダリアが植えられていて、圃場の至る所にびっしりとダリアが並んでいます。今はちょうどダリアが咲き頃ということもあり、たくさんのダリアが一斉に咲き溢れています。植え付けや管理は決して楽ではありませんが、その分咲いた時の喜びは何物にも変えがたいものがあります。

コロナ禍の中で

今年は新型コロナの流行もあり、例年とは大きく様変わりした日常を送られた方も多かったと思います。同じく千葉大学でも4月から7月の間は大学キャンパスへの立ち入りが制限されていた

ので、限られた時間の中で植物管理や圃場整備、実験などを行わなければならませんでした。普段の花弁研では週に2回ほど皆で集まって圃場で作業を行なっていますが、今年は大人数で集まることも制限されていました。より少ない人数、少ない回数の作業しか行うことができませんでしたが、その中でも皆が力を合わせて協力してくれたおかげで、なんとか無事にコロナ禍の作業を乗り越えることができました。このような困難な状況だからこそ、皆で一致団結して立ち向かっていくことが大切なのだと、改めてこの身を以て感じました。

終わりに

寒さが身に染みるような日も増えつつあり、今年も終盤に差し掛かかろうとしています。これからの時期は新3年生の配属や修論・卒論発表、大学院試験などいろいろな行事があり、ますます忙しい生活になるのだろーと思います。だからこそより一層気を引き締めて、研究生生活を思う存分楽しんでいきたいと思っています。そして、今後とも、花葉会の皆様が作り上げた歴史や環境に感謝しつつ、植物を通して幅広い知識や経験・考え方や価値観に触れることで、心身ともに成長するよう努めていこうと思います。

